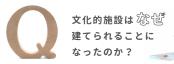


2021.4.23発行

特集 |

発行 | 四万十町役場企画課 文化的施設整備推進室 お問い合わせ先 | 0880-22-3124 担当 | 大河原・松下

四万十町の新しい文化的流設。





※写真はイメージです。





昭和40年に開館し、平成 12年に現施設に移転した 現在の図書館と併設された 美術館は手狭になり、資料 や美術品の保存環境が十分 ではありません。







平成29年9月に文化的施設検討委員会を設置。検討 委員会やワークショップなどを通じて、「文化的施 設を自分はどのように活用したいか」「そのために はどのような施設にしたいか」などを考えました。

四万十町文化的施設「基本機想」「基本計画」「基本設計」ができ、



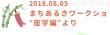
四万十町の 芸術文化の拠点 町民の 集える場 中心市街地の にぎわい創出

のシンボルとしての文化的施設の整備へ動き出しています。















こんなことが できるといいな









開館までの流れ (予定)

2017

2018

2019 平成31年/令和元年 令和2年

2020

文化的施設の

5つの役割



- 人とまちをつなぐコミュニティの場 /
- 22 子どもたちが自分の居場所を見つけられる場 🥖
- 最新の情報と技術を活用した多様な文化・芸術体験の場
- ❷ 想像/創造体験を通した自己表現の場 /
- ⑤ STEAM教育に基づく試行錯誤の場 /

「あれか、これか」ではなく、「あれも、これも」をどん欲に実現します。

STEAM教育









Mathematics 数学

学、科学、芸術などの基礎を身に付け、 技術や工学などを応用して問題解決を図 す。これは、文化的施設の5つの役割の 一つとして挙げられています。

文化的施設

で実現!

特集



これまで2回にわたりロボット・プログラミング学習キットを用いたワー クショップを開催しました。第1回(2020.10.04)では雪掃き機をプログ ラミング し、テーブルに散らばったブロックをどれだけ多く落とすことが できるかを競い合い、第2回(2020.11.23)では「人造人間変身スー ツ」を作って発表しました。両日で延べ34人の小中学生がのびのびと想像 力を膨らませ、新しい学びの体験をしました。

まちの文化が流れ、人にひらかれ、人が集まる四万十駄場

施設基本構想で、新しい文化的施設の誕生によって生み出す未来予想図(ビジョン)を示しました



「駄場」とはひらけた土地のことを表しますが、現在では、人が自然と集まり交流する 場所の意味合いでも使われています。四万十町の新しい文化的施設も同様に、世代を超 えて様々なストーリーを持つ人々が融合し、入り混じっていくような場となっていくイ メージを込めて、ビジョンを定めました。とうとうと流れる四万十川のように私たちも これまでの文化を守りながら、これからの文化を生み出す場として「駄場」のようにま ちと人に開かれた拠点となることを目指します。

4月12日発行の「四万十町の新しい文化的施設: No.02号の 中で、表記に間違いがありました。「まちの文化が流れ、人 にひらかれ、人が集まる 四万十駄馬」となっていますが、 正しくは「駄場」です。訂正してお詫びいたします。



いまここ!

2021

2022 金額 4年

2023

2024 令和6年



四万十町「文化的施設検討委員会」設置 平成29年9月~令和2年3月まで

基本構想策定 3月

基本計画策定 2月

3 д

基本設計完成

サービス計画策定 実施設計完成